

2012. 1. 22 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2012年

岩上敬人著「パウロの生涯と聖化の神学」

## <第一テサロニケ書における聖化の教え> 「全的聖化のための祈り」

テキスト：

「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをして下さいます。」（1テサロニケ5：23）

<比較>「また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように。」（3：13）

### A. 性的不品行からの決別

（コリント教会と同じように）性的不品行への誘惑がテサロニケ教会の問題であった。パウロは、それへの対極として、聖潔を強調した。

### B. 伝道者の模範に倣う生活

パウロは、自分の生活は聖化の基準であるという確信を持っていた。それは、①自分が、人の心を調べなされる神を喜ばせようとしていたからであり（2：4）、②神に相應しく歩むように努めていたからであ

り（４：１）、敬虔に、正しく、責められる所なく振舞ったからである（２：１０）。

パウロは、その実践的聖化に倣うようにテサロニケ信徒を励ました。

### C. 全き聖化

・ ３：１３と５：２３は共通：聖化を求める祈りは、二箇所に記されている。前者は、手紙の中心、後者は結論である。共通しているのは、テサロニケ信徒の聖化である。言葉も共通で、前者では「聖さ」、後者では「聖化する」；前者では「責められるところのない」、後者では「責められるところのないように」；両者とも「再臨のとき」についての言及がある。強調点は全体性と完全さである。

・ 何を祈っているか：それは、再臨の時になされる聖化の完成のことではなく、再臨の時までに既に全く聖化され、備えられることである。つまり、将来の完成ではなく、現在の聖化である。性的不品行などからきよめられる実際的な倫理的な聖さを含むものであった。その聖い生活を可能とするのが「全き聖化のみ業」である。

<竿代による追加>それを可能とするのは、一重に主ご自身の「真実」であり、十字架で全うされた贖いのみ業である。